

「地区選・写生会」頑張れ！

R1.6.14

第33話

昨日、明日に迫った「地区選・写生会」の壮行会を行いました。
校長先生からの言葉として、以下の内容を話しました。
当日の活躍、楽しみにしています。

いよいよ、これまで鍛えてきたことを試す時が迫ってきました。運動部においてはフェアプレーのもと、部及び個人としての目標が達成されることを祈っています。相手にひるまず、堂々と悔いの残らない闘いをしてきてください。美術部においては、集中できる環境を整え、自分がイメージした作品が制作できるよう頑張ってきてください。また、他からのアドバイスを素直に受け入れ、作品がレベルアップすることも期待します。

さて、ここで、既にお亡くなりになっているのですが、作家であった開高健（かいこう たけし）さんの言葉を紹介します。その言葉とは、

「 右の目は熱く、左の目は冷たく、心には氷の炎を持って 」 です。

熱くなるだけでは、物事を冷静に見ることができなくなります。しかし、冷めた目でしか見ないと、何事にも消極的になってしまいます。つまり、熱い目と冷めた目、熱い心と冷静な心を同時に持ち合わせるものが大切だ、という意味です。

試合で、有利な展開になっていても油断せず、隙を見せないように冷静な心を保ちながら、最善のプレーを目指す。不利な状況におかれても諦めず、絶対に逆転するという熱い心を奮い起こす。このバランスをとることは難しいと思いますが、自分を信じ、共に練習に励んできた仲間と声をかけ合いながら、ここ井波の地で培ってきた粘り強さを発揮すれば、きっと充実感のある試合ができると信じています。また写生会においても、多くの人を感動を呼び込めるような作品となるよう、完成するまで気を抜かず、落ち着いて制作活動に取り組んで欲しいと思います。

結びに、ご指導いただいた顧問の先生やコーチ、支えてくださった家族の方々への感謝の気持ちを忘れず、マナー面でもベストマナー賞を目指すなど、井波中学校生として恥ずかしくない言動を心がけてきてください。さらに、3年生にとって、中学校における部活動の節目である当日が、納得の行く一日となることを願っています。

「 右の目は熱く、左の目は冷たく、心には氷の炎を持って 」

